

平成28年度外部評価委員会評価票の集計

I 次の各項目について、該当するものを選んでください。

- A：そう思う
 B：どちらかといえばそう思う
 C：どちらかといえばそう思わない
 D：思わない

人数(人) (計8人中)			
A	B	C	D

1 研修センターの運営について

- ① 教育研修センターが実施している各事業の目的及び重点課題は、適切であるか。
 ② 教育研修センターが実施している各事業の運営は、適切であるか。

6	1	1	0
4	3	1	0

2 研修センターの組織について

- ① 現在の組織は各事業の遂行に当たり適切に構成されているか。
 ② 現在の組織は、効果的、効率的に機能しているか。
 ③ 職員は、各事業の遂行に当たって適切に配置されているか。

6	2	0	0
4	4	0	0
4	3	1	0

3 研修センターの各事業について

- ① 各事業の内容が具体的で分かりやすくなっているか。
 ② 教職員のライフステージに即した研修体系になっているか。
 ③ 研修事業について
 ア 研修講座は、教職員の資質能力の向上及び指導の改善につながっているか。
 イ 受講者のニーズを把握した研修内容になっているか。
 ウ 講師等の選定及び対応は、適切であるか。
 エ 研修講座の運営は、適切であるか。
 オ 内部評価は、適切に行われているか。
 カ 所員の専門性の向上は図られているか。
 ④ 研究事業について
 ア 各研究分野における内容は、国及び県の教育施策を反映した喫緊の課題に対応しているか。
 イ 研究成果は、学校現場の課題解決に活用されているか。
 ウ 研究発表会は、参加者にとって満足感が得られるものであるか。
 ⑤ 校内研修支援事業は、学校現場の校内研修の活性化及び課題解決に貢献しているか。
 ⑥ 相談事業は、児童生徒・保護者等の問題の解決へ向けて、適切に対応しているか。
 ⑦ 教育情報の収集及び提供に関する事業は、教職員の多様な要望に応じているか。

4	4	0	0
6	2	0	0

5	3	0	0
4	3	1	0
5	2	1	0
6	2	0	0
5	2	1	0
6	1	1	0

4	4	0	0
3	4	1	0
4	4	0	0
6	2	0	0
6	2	0	0
3	5	0	0

4 施設設備の整備等について

- ① 受講者の健康管理・安全管理体制は、確立されているか。
 ② 施設設備の維持管理が十分行われているか。
 ③ 障害者に対して十分配慮されているか。
 ④ 危機管理体制が確立されているか。
 ⑤ 清掃の状況は行き届いているか。

3	4	1	0
5	3	0	0
2	6	0	0
5	3	0	0
8	0	0	0

5 外部評価委員会について

- ① 開催回数及び時期（7月・10月・2月）は、適切であるか。
 ② 開催内容（施設見学・研修講座参観等）は、適切であるか。
 ③ 評価のための資料は、適切であるか。
 ④ 評価票の項目及び評価方法は、適切であるか。

6	1	1	0
8	0	0	0
5	2	1	0
5	2	1	0

平成 28 年度茨城県教育研修センター第 3 回外部評価委員会記録

日時	平成29年 2 月23日（木曜日） 午後 1 時30分から午後 3 時00分まで
場所	茨城県教育研修センター第 1 研修室
出席者	<p>○外部評価委員</p> <p>生越 達 委員 橋本 昭彦 委員 小田部 卓 委員 関 洋一 委員 大高 美子 委員 稲見 和子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p>所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 市毛 栄 副参事兼企画管理課長 原 修一 教科教育課長 川村 始子 情報教育課長 川嶋 正人 教育相談課長 柴山 優子 特別支援教育課長 大川 行彦 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

(1) 平成28年度各事業の実績及び成果

・事務局説明

(2) 外部評価委員による事業評価

【1 研修センターの運営について】

○ 評価はCとしたが、提供された情報が豊かであるため、以前は見えなかったことが見えるようになったからで、前よりも運営が悪くなったという認識ではない。

研修の担当者は、評価票の書き方をずいぶんレベルアップさせている。

運営の項目にCを付けた理由は、「学校と研修センターの一体化」という目標が、大変高次元の理念であるので実現は簡単なことではなく、それなりの準備と体制とお金が必要だからである。また、現場ニーズのアセスメントでは、ニーズを拾っていることは分かるが、受講者が思っていたことと実際に受けた研修にずれを伺わせるものも見える。これは要求水準を高く設定しているのので、それに応じて厳しい要請が必要になったということである。

様式2-2は、中身がないと思えるシートである。各事業の目的は、一般的すぎて担当者の理想や意気込みが伝わってこない。重点課題については、どれが重点課題か分からない。各事業については、大変順調な運営をしていると思うが、「学校と研修センターの一体化」という観点からはギャップがあるのではないかと指摘したくて評価をCとした。

- 様式3については、各講座担当者が、自分の講座に関する振り返りを行っているのですが、具体的に記載できているが、様式2-2については、ある研修をトータルで捉えるという整理をしているので抽象的な資料になってしまっている。重点課題が見えないということについては、評価項目の見直しをしていく中で残ってしまったと推測されるので、今後改善していきたい。
- 「学校と研修センターの一体化」については、本当に難しい問題だと思っている。管理職や一般の教員に対して、日々の教育活動に必要な資質能力等を向上させる研修が行われることが重要と考えている。今までの研修センターの講座には、高校の教員が出たいという研修がそれほど多くはなかったと思う。来年度は、県の重要政策として、授業の中で生徒たちに論理的思考力を付けさせ、大学入試にも役立つ講座を実施する予定である。この講座は、高校で進学指導をしている先生方が研修センターでやってほしいと思っていた講座なのではないか。

また、100校アンケートでは、各校種から要望を聞き取っており、その要望を講座構築に生かすことで、学校と研修センターの一体化が達成できるようにしていきたい。

- アンケート結果には、研修講座を受講して非常によかったという結果が出ており、研修センターに対する期待は大きいと思う。しかし、研修した結果が学校に戻ってどれだけ生かされているかについては、疑問などところがある。さらに、研修に出すと学校運営に支障をきたすという意見もある。これらは研修センターだけでは解決しないことなので、茨城県の教育界全体の舵取りの中で、見直しが必要ではないかと思う。
- 職員を研修に来させることは、授業の振替や填補する先生の人数が少ない中で大変だと聞いている。また、教育委員会では、毎年時間外勤務調査を行い、教員の多忙化を調査している。今後35人学級を中学校の2年生まで広げ、教員を確保するなど、安心して研修に職員を出せるような状況を県としても作らなくてはいけないと考えている。今後も本庁の職員とのセンター運営協議会でも要望していきたいと思っている。

【2 研修センターの組織について】

- 組織構成については、組織図を見ると適切と思った。ただ、効果的・効率的かについては全部を見ているわけではないので、若干迷うところがあった。職員数については、先生の数が少ないと叫ばれていることを考えると、働いている方自身は職員不足を感じているのではないかと思う。
- 組織については、県全体の行政改革の中でセンターだけでなく、教育委員会全体の人数を増やせない状況にある。仕事を遂行していくためには、適正な数があるので、現在いる職員数に応じて研修講座等をスクラップし、必要とされるものは新しく立ち上げ、実際の職員数に応じた事業を組んでいくようにしていきたい。

- 今回の資料を見ただけでもいろいろな仕事があり、センター指導主事や職員は、忙しいだろうと思うが詳しい動きは分からないので、評価はBとした。組織にあった事業、人数に負担がないような事業をしなければいけないが、教員のニーズは多岐にわたるので、その研修を構築するために、指導主事や職員の方は、本当に大変だろうという一言に尽きる。さらに研修を担当するだけではなく、自分自身もスキルアップさせていかなければならないので、指導主事のスキルアップについてはどのように取り組んでいるのかお聞きしたい。
- 先生方によりよい研修を提供するためには、担当指導主事の力もつけていかなければならないので、指導主事の資質向上は大切な課題である。主に自分の専門的な情報を集めるために必要な出張等への参加や、研修委員会を組織してセンター中で指導主事同士がいろいろな情報を交換しながら資質を高める所員研修を実施している。さらに11月には、研修講座運営や講義を相互参観し、自分の講座に生かすという機会を設けて資質の向上に努めている。

【3 研修センターの各事業について】

- 校内研修支援事業については、一緒に研修をしていただけると先生方の資質向上につながる。それが生徒へも還元できると思っているので、現場のニーズに対応した支援をお願いしたい。相談事業に関しては、快く相談にのっていただいているのでありがたい。
- 校内研修支援については、事前の打ち合わせが大切だと思っている。訪問時には、学校のテーマに対して、何を伝えるか、あるいは何を見せていただくかについて、学校と十分に打合せを行い、学校のニーズに対応した校内研修支援となるように努めていきたい。
- 100校抽出アンケートからは、研修に対する評価は高いということだが、評価1（最良）と評価2（良）（以下、評価1，評価2のみ表記）を合わせることは懐疑的である。評価2をもらったときには、何か改善するところがあるか、あるいは何か受講者に合わないところがあるので、評価1と評価2を合計して満足の方に入れてはいけないと思う。

事業評価シートの様式3の達成目標については、改善しているが、達成という言葉が講師の側、研修をする側の達成と考えているものが見られる。考えないといけないのは、研修を受けた側の達成であり、学んだ側の達成ということを強調しないといけないと思う。教員研修センターのWebでも達成目標について、「研修を実施した後で受講者がどのようになることを目指すのかを具体的に記述したものであるべきだ。」と書かれており、達成目標は、研修を受けた先生一人一人がどうなったかというのが問題で、半分の方がどうなったかというのはあまり関係ないのではないかと思う。

達成目標の欄には、「何を」「どこまで」の二つがないといけない。「何を」については、知識や技能、視点などが概ね書かれているが、「どこまで」が記載されているものは少ない。よい例としては、達成目標がただ単に知識が得られる、技能が向上するではなく、「受講者全員が授業作りの8つの視点から評価の工夫に焦点を当てた教科を合わせた指導、もしくは自立活動の研究授業を実施し、授業研究のまとめを作成することができる。」という受講者の具体的な姿を記載し、目標を達成したかが極めて分かりやすく評価しやすいものもあった。また、達成度の評価では、ただ単に評価1と評価2を足して90%だからよしとするのではなく、評価1が60%なら残りの30%はなぜ評価2がついているのかということを考えなければいけない。改善の余地があるときには、講座の事業評価にcを付けることを恐れなくて

ほしい。目標を達成することができなかつたと書かれていても事業評価がbとなっている矛盾したシートもあった。

- 実施した講座について、事業評価シートを作成しているが、これがしっかり機能していないと講座を振り返る資料としては十分でないという意識がある。前年度に各講座の担当が講座構築を行い、次年度の担当が達成目標を作成し、講座担当が講座後のアンケートを作成するなど、バラバラに構築している部分があった。来年度に向けては、講座を構築した担当が達成目標と講座後のアンケートを作成するなど、事業評価シート作成の見直しを行っているので、次年度は少し改善したものを示せるのではないかと思う。

【4 施設設備の整備等について】

- 受講者のコメントの中に、研修室が寒く体調を崩したというものがある。快適な環境で研修できるよう、環境面については御配慮願いたい。さらに、食堂については、昼食を持参する職員が多いので、意見を上げて改善されれば利用者が増えるのではないかと思う。施設としては、年数が経っているが、清潔感があって清掃が行き届いていると思う。
- アンケートの時期が11月、12月ということで空調関係の意見が多かった。反省点としては、こちらからのお知らせが不足していたと思う。県の施設は暖房の時期は、12月からとなっているため、要望通りの対応は難しいところである。ただ、センターとしても12月という基準はあるが、11月下旬の気温が低いときには暖房を入れたり、ファンヒーターを研修室に運んだりして臨機応変に対応している。このような意見もあるので、各講座のアンケートも注視して対応していきたいと考えている。ただ、施設はかなり古くなり、大研修室や大会議室などの人数の多いところについては、空調を入れてもなかなか十分に暖まらないところがあるので、事前にホームページ等で防寒対策のお知らせをするなどの工夫をしていきたい。
- 施設設備の整備についての苦情は運用面である。慣例で何月から使うか等の原則はあるだろうが、これだけ大きな施設だと日陰の所もあるので、同じ設定ではかわいそうだと思う。評価委員会からも毎年強く要望が出ているという声を伝え、運用を緩やかにして臨機応変に対応することで解決できるのではないか。

【5 外部評価委員会について】

- 年3回は適切だと思う。人それぞれのスケジュールがあるので、評価はBとしたが、基本的にはこのタイミングというのは、適切ではないかと思う。施設見学や講座参観など評価委員会の内容は適切だと思う。評価資料は、見やすく、分かりやすいものであるが、量が多いと思った。評価の項目については、設問に対して分からないところもあり、自信をもって答えられず、消去法で答えたところもあった。
- 評価項目が分かりにくいということについては、今後改善するよう検討したい。
- 評価項目が分かりにくいということではなく、施設についての項目は、見せていただいたのが短時間なので、不具合などに気付かないということである。

- 立派な資料ではあるが、公務等があり全てを読むことができなかった。会議のスリム化のために、資料はできるだけ簡潔なものにしていただけるとありがたい。また、講座参観などは大変参考になったが、年3回で実施した内容をうまく組み合わせて、年2回が妥当なのではないか。負担軽減になるようにすることが望ましいと思う。
- 研修センターが外部評価委員の意見に過度に振り回されないようお願いしたい。委員には見えていない部分もあるので、見ずに評価しているという部分もある。指摘があったことを全て変えるのではなく、変更したい部分を主に使っていただければと思う。評価委員の方も状況に応じて判断していただければいいと思うので、資料は多くても構わないと思う。
- 今後の研修センターの研究内容として取り上げてほしいものについて、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善への要望が多いが、研修センターとしては、今後どのような方向で研究に取り組んでいくのか。
- 来年度、教科教育課では、主体的・対話的で深い学びをテーマとして研究に取り組み、12月に発表会を行う予定である。また、各課の研修講座の中でも積極的に考え方を紹介していくように進めているところである。

(3) その他

4 閉会